

S 評価を得て

IPMU 機構長

村山 斉 むらやま・ひとし

IPMU を含め世界トップレベル研究拠点プログラム (WPI) の資金で運営されている日本国内の 6 つの研究拠点のうち 5 拠点が発足 4 年を機に文部科学省から中間評価の審査を受けました。その結果が 2011 年 12 月 14 日に文部科学省から発表され、IPMU は最高点である S 評価を受けました。文部科学省によると、S 評価の意味は『当初目的を超える拠点形成の進展があり、「世界トップレベル研究拠点」としてさらなる発展が期待される』ということだそうです。とてもいいですね!

夏から秋に掛けての厳格な中間評価を経て、S 評価を得られたことは、大変嬉しいです。長い伝統を持つ

世界の強豪研究所に迫り、高いビジビリティーを得るのは大変難しいことです。特に外国人の研究者が安心して来られる、そして来たいと思う魅力的な研究所を作ることを心がけて来たのが、評価されたのだと思います。4 年間にここまで来られたことは、東京大学の厚いサポート、優秀な事務スタッフ、加えて一般の方の応援があったからこそです。更に、発足当時から徐々に立ち上げて来た大きなプロジェクトは、これからデータが出て、結果を出していくフェーズに入っていきます。これからが一番の勝負所だと思っています。

